

5月18日の選考委員会で、2017年度助成校・団体35件の中から『第8回日産財団理科教育賞』の大賞候補4件が決定いたしました！

9月17日に、横浜ベイホテル東急で開催予定の第8回理科教育賞贈呈式で、候補者による成果発表の結果、大賞と理科教育賞が決定します。

また、それ以外の31件の方々については、作成していただいた成果ポスターに対するweb投票を実施し、最も獲得票数の多い学校・団体へ『理科教育賞ポスターセッション賞』を贈呈いたします。

【神奈川県代表】

横浜市立南本宿小学校

『ESDの視点の獲得につながる、
「日常」をサイクルに取り入れた問題解決学習』
～実際に環境に働きかける場面の設定を通して～



本実践では、「ESD」に焦点を当て、育成を進めていくために、各教科や領域の中でどのような単元づくりをしていくか、さらにはそれらの単元を教科等横断的な視点でどのように配列していくかについて研究することを大きな目的としている。同時に、その実現をサポートする手段としての情報機器の活用方法についても考えていくこととした。具体的には、理科や総合的な学習の時間、学校行事などにスポットを当てながら、日常を出発点として学習を組み立て、探究の過程で得られた知識や理論を再び日常に還すという「サイクル」を意識して単元づくりを行った。

【福岡県代表】

北九州市立曽根東小学校

『主体的に学び、持続可能な社会を創造できる児童の育成を
目指した環境教育』



本校の環境に関する教育は、2020年度から実施される学習指導要領の主旨を踏まえ、2018年度から大きく二つの方向性を定めた。一つ目は、「内容ベース」から「資質・能力ベース」へと変換した。学校教育目標を具体化し、「育てたい資質・能力」を定めた。二つ目は、これまでの実践を資質・能力に沿って、教科横断的に整理した。特に自然事象を対象とすることから、理科と関連させて研究を推進した。

【栃木県代表】

下野市立祇園小学校

『主体的に学び、よく考えて課題解決ができる児童の育成』
～理科を軸に、書くことを通して～



本校児童の弱点である理科を研究の軸として、テーマを「主体的に学び、よく考えて課題解決ができる児童の育成」とした。そして、教師の指導力向上を、1つ目のアプローチとして研究を行ってきた。また、過去の研究から効果的であった「根拠を示して書く活動」を通しての論理的思考力の向上の取り組みを、理科を軸に行うことで2つ目のアプローチとした。そこで、副題を「理科を軸に、書くことを通して」として、研究を進めてきた。

【福島県代表】

いわき市立小名浜第三小学校

『理科における思考力・判断力・表現力を伸ばす授業の在り方』
～タブレット端末を活用し、
子どもたちの思考を可視化する実践を通して～



より児童が主体的に取り組み、思考力・判断力・表現力を駆使して進める理科学習の在り方を追求するために、本実践を行うことにした。実践のポイントとしては、①指導過程（導入・展開・終末）の段階ごとに研究の視点を設定すること、②タブレット端末などのICTの活用を通じた実践を行うこと、③研究後も本校の理科教育に活かせるように、教育課程にできる限り反映できるようにすることを意識して取り組んでいくことを目指した。

☆第3回リカジョ賞 グランプリ候補決定☆

『第3回リカジョ賞』のグランプリ候補が、下記の通り決定いたしました。贈呈式での成果発表によって、グランプリ・準グランプリを決定いたします！

① 国立大学法人筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ② 同志社大学 ③ 函館工業高等専門学校・理系女子実験隊<順不同>

※ 第4回からは『リカジョ育成賞』として募集いたします！募集期間は、2020年5月25日(月)～2021年1月17日(日)です。詳細は、日産財団ホームページをご覧ください。